

丹後農業実践型学舎研修情報（5月）

（研修概要）

【6期生】

- ほ場の耕転、肥料散布、かん水等を通じて各種機械の使用方法を習得した。
- 甘藷、かぼちゃ等各種野菜の栽培管理をした。
- 「カボチャの栽培」「農薬取締法」「農業機械」「経営・マーケティング論」「京野菜」「電気柵」を受講した。
- 農業次世代人材投資事業（準備型）説明会に参加した。
- 市内ネギ圃場、市内ニンニク圃場、日本通運加工場を視察した。



カボチャ 播種



カボチャ 定植



カンショ マルチング



カンショ 苗挿し



講義：農薬取締法



講義：農業機械

研修を通じての学舎生の所感（抜粋）

農薬を使用する際にその作物に対して登録があるかどうかや保管をする場所の施錠の徹底の重要性を学んだ。またトラクターの操作に少し慣れてきたので、細かい操作も理解してトラブルに対する冷静な対応が行えるように学んでいきたい。

農作業の省力化を図り、食糧増産のためには農薬の使用が必要不可欠で、すべてが有機農業に戻ると食糧難に陥る。両方が必要である。生産の現場に立ち、日々新たなことを学んでいくごとに、病虫害から守りながらおいしく健康な野菜を需要を満たすだけ作っていくことの難しさを感じている。薬剤については、適切な管理と使用を心がけ、健康な状態で育ち、安全でおいしく、栄養をしっかりと蓄えた野菜を育てていきたい。

まずは、栽培ごよみをよく理解することが重要だと思った。農薬や肥料は生産量アップにはかかせないものであるが、使用方法には特に注意が必要なのことがわかった。栽培履歴の作成、肥料ノート、農薬ノートなどの記録は、抜けなく書く必要があると思った。

カボチャの定植、カンショの圃場準備を終え、トラクターの操作にもかなり慣れてきた。しかし、トラクターを運転する際は、危険がつきまとうので、事故のないように運転していきたい。

栽培技術、マーケティングの知識だけでなく、修理技術も身につけなければならないと思った。

実習において、除草剤の希釈倍率の雑草の種類に応じた使い分けや暗渠排水の見学はとても勉強になった。特にカンショの苗挿しにおける苗を挿す道具は既製品ではなく廃材の単管パイプを加工してその代用品にしていることに感銘を受けた。農家になるにあたり、何でも既製品を買うのではなく簡単に作れるものは自分で加工したものを使用したいと思った。

カンショの苗挿しを研修生と職員の皆さんと一緒にやり、並行して水やりも行うことができたので、あっという間に終わることができたが、一人で行う場合には、「この時間の人数倍以上かかるんだな。」と思った。

電気柵の講習を受け、これからの農業に電気柵は必須でその正しい設置をし、かつ防ぎたい動物に合わせた高さを調整して被害を減らしていこうと思う。

ブームスプレヤをはじめ大型の機械を使った見学が多く、大規模農業において大面積の除草剤散布や堆肥散布による土づくりには大型機械が必要なのでとても有意義だった。

作業量が多くなると、1日で終わらなくなってしまうので、時間短縮や効率アップを考えていきたい。